

# LIPER3 シンポジウム記録

## 日本の学校図書館専門職員はどうあるべきか： 論点整理と展望

2012年12月1日（土）13：30～17：20  
東京大学本郷キャンパス教育学部 156 教室

登壇者：「日本学校図書館職員史と今後への展望」

塩見 昇（大阪教育大学名誉教授）

「21世紀のカリキュラム展開と学校図書館職員養成」

根本 彰（東京大学大学院教育学研究科教授）

司 会： 中村 百合子（立教大学文学部准教授）

主催：LIPER3  
科学研究費プロジェクト  
基盤研究 A  
「図書館情報学教育を高度化するための研究基盤形成」



# 目次

## I 開会のことば

## II 講演

### 「日本学校図書館職員史と今後への展望」…塩見昇

1. はじめに	5
1.1 私の学校図書館研究の出発点	
1.2 制度的保障のなかった戦前の学校図書館	
2. 学校図書館の発生、起点	8
2.1 大正13年の「副読本禁止の次官通牒」	
2.2 成城小学校による『教育問題研究』	
2.3 戸塚廉『いたずら教室』	
3. 学校図書館と専門職員	11
3.1 学校図書館を巡る法令	
3.2 政争に翻弄された学図法改正問題	
3.3 教育をともにつくる学校図書館専門職員	
4. 学校図書館職員像探究の論点	14
4.1 学校図書館職員の現在—歴史的所産	
4.2 二職種併置	
4.3 位置づけ—教育専門職か図書館専門職か	

## III 講演

### 「21世紀のカリキュラム展開と学校図書館職員養成」…根本彰

1. はじめに	19
2. 学校図書館を必要とする教育的条件 —開放的知識と閉鎖的知識	20
3. 学校教育カリキュラムと図書館を どのようにとらえるか	23
4. フランスの学校教育と学校図書館制度	27
5. おわりに	30

## IV 討議

○初期の図書館界からの指導の功罪	33
○学校図書館の教育力を活かせる専門家	37
○自分で選び取る学び	39
○子供の尊重にどこまで徹しられるか	41
○公共図書館の貧しさ	43
○学校図書館専門職の養成教育	47
○今をどう踏まえるか	48
○学校図書館専門職員と校種の問題	49
○二職種の展望	52

## V 当日配布資料

LIPER3 シンポジウム記録

日本の学校図書館専門職員はどうあるべきか：論点整理と展望

2013年3月15日 初版発行

登壇者：塩見昇、根本彰

司会：中村百合子

記録編集、スタッフ：堀川照代、今井福司

発行：東京大学大学院教育学研究科生涯学習基盤経営コース

図書館情報学研究室

〒113-0033 東京都文京区本郷 7-3-1

東大教育学部内図書館情報学研究室 (2F221)

URL: <http://panflute.p.u-tokyo.ac.jp/liper3/>

